「泌尿器がん由来のがん幹細胞の制御機構の解明」に関するお知らせ

このたび、当院で診察を行った患者さんの検体を用いた以下の研究を実施いたします。
本研究は、埼玉医科大学総合医療センター研究倫理委員会の承認を得て、病院長による許可のもと行うものです。
本研究では、患者さんに追加でご負担をお願いすることはありませんが、残余検体やカルテ情報等を使用することに賛成でない場合、あるいはご質問がある場合は、患者さんご自身でもその代理人の方でも結構ですので、問い合わせ先までお申し出ください。お申し出いただいても不利益になることは一切ありません。

研究の概要について

１．研究の対象となる方

2016 年 2 月 25 日から 2030 年 2 月 28 日の期間に埼玉医科大学総合医療センターを受診し、前立腺腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍、膀胱腫瘍、精巣腫瘍、副腎腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍と診断され、検査を実施した患者さんを対象としております。

２．研究の目的

がんの親玉細胞と考えられている，「がん幹細胞様細胞」が薬剤感受性や癌全体の増殖、転移を決定づける事が近年明らかになりつつあります。この親玉細胞の特徴を調べることが目的です。

３．研究期間

病院長の許可後～2030 年 3 月 31 日

４．利用または提供の開始予定日

2016 年 2 月 25 日
開始予定日以降も研究への利用停止などのお申し出に対応いたします。

研究に用いる試料・情報について

１．試料・情報の内容

前立腺腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍、膀胱腫瘍、精巣腫瘍、副腎腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍の臨床検体、血液のうち，診断に使用したのちの残余検体

この研究で得られた患者さんの情報は、埼玉医科大学総合医療センターにおいて、研究実施者である北山　沙知が、個人が特定できないように加工した上で管理いたします。そのため、患者さんのプライバシーが侵害される心配はありません。

２．試料・情報の取得方法

前立腺腫瘍、腎腫瘍、腎盂尿管腫瘍、膀胱腫瘍、精巣腫瘍、副腎腫瘍、陰茎腫瘍、後腹膜腫瘍と診断された患者さんの検査を実施した際に生じた残余検体、検査データおよび診療記録等を用います。

３．試料・情報を利用する者（研究実施機関）

埼玉医科大学総合医療センター　泌尿器科　講師　　北山　沙知（研究代表者）
埼玉医科大学　医学部ゲノム応用医学　　教授　　堀江　公仁子
東京都健康長寿医療センター研究所　老化機構　　研究部長　井上 聡
千葉大学医学部附属病院　泌尿器科　　准教授　坂本　信一
千葉大学大学院医学研究院　分子病態解析学講座　　教授　　田中　知明
千葉県がんセンター　泌尿器科　　部長　　深沢　賢
東北大学大学院医学系研究科　病理検査学分野　　教授　　鈴木 貴
帝京大学　先端総合研究機構　　教授　　岡本　康司

４．試料・情報の管理責任者

＜提供元機関＞埼玉医科大学総合医療センター　泌尿器科　　講師　　北山　沙知（研究代表者）
千葉大学医学部附属病院　泌尿器科　　准教授　坂本　信一
千葉県がんセンター　泌尿器科　　部長　　深沢　賢
＜提供先機関＞埼玉医科大学　医学部ゲノム応用医学　　教授　　堀江　公仁子
東京都健康長寿医療センター研究所　老化機構　　研究部長　井上 聡
千葉大学医学部附属病院　泌尿器科　　准教授　坂本　信一
千葉大学大学院医学研究院　分子病態解析学講座　　教授　　田中　知明
東北大学大学院医学系研究科　病理検査学分野　　教授　　鈴木 貴
帝京大学　先端総合研究機構　　教授　　岡本　康司

５．試料・情報の提供方法等について

・＜試料＞追跡可能な輸送方法により、研究実施機関へ送付します。
　＜情報＞個人が特定できないように加工しパスワードをかけた電子ファイルを、メールで送信します。

お問い合わせについて

　ご自身の検体やカルテ情報等を利用されたくない場合、あるいはご質問がある場合には、以下の連絡先までご連絡ください。
利用されたくない旨のご連絡をいただいた場合は、研究に用いられることはありません。
ただし、ご連絡いただいた時点で、既に研究結果が論文などで公表されていた場合、結果などを廃棄することができないことがありますので、ご了承ください。

〇研究課題名：泌尿器がん由来のがん幹細胞の制御機構の解明
〇研究責任者：埼玉医科大学総合医療センター　泌尿器科　北山　沙知

お問い合わせ先
049-228-3673（泌尿器科医局）